

京都大学

生態学研究センター・ニュース

No. 6

— 目 次 —

センター教員公募のお知らせ	1	編集後記	3
研究会報告	2	今後のスケジュール	4
京大大学生態学研究センター 運営委員会（第三回）議事要旨	3		

教員の公募のお知らせ

当センターでは温帯生態研究部門の教員を、以下の通り公募いたします。つきましては、貴機関の関係者に周知賜り、適任者の推薦または応募につき御高配下さるようお願い申し上げます。

京大大学生態学研究センター長
川那部浩哉

記

1. 職名 教授または助教授 1名
2. 対象分野 地域群集と生態系の動態研究に取り組んでいく人。
アジア地域を中心にし、地球変動との関わりにも配慮できる人が望ましい。
3. 着任予定 1992年9月ないし10月
4. 提出書類 (1) 履歴書1部
(2) 研究業績目録1部
(3) 主要著作(別刷り等)10編以内
(4) 生態学研究センターに来られた場合の御自身の活動に関する抱負
(2000字程度)。
なお、推薦の場合はこれに準ずるものを推薦者において用意していただくと幸いです。
5. 公募締切 1992年4月30日必着
6. 書類送付先 「応募書類」と朱書し、簡易書留で下記宛に郵送してください。
〒520-01 大津市下阪本 4-1-23
京大大学生態学研究センター長 川那部浩哉
(電話 0775-78-0580)

研究会報告

京都大学生態学研究センター・文部省重点領域研究「地球共生系」総括班の共催により、下記のワークショップが当センターで行われました。今回は少人数でといたながらも、結局60名近い方々が参加して下さり、これを機にさらに広い分野の研究者が交流できるように輪を広げていこうということになりました。なお、このワークショップの速記録があります。ご入り用の方はお申し出ください。(遊磨記)

びわ湖の辺で「水の生態学の新たなる展開を探求する」ワークショップ

とき：1992年2月27日(木)～29日(土)
場所：京都大学生態学研究センター

== 2月27日(木) ==

安部 琢哉(京大・生態研センター)
「開会のあいさつ」

セッション1

「びわ湖研究のプロファイル

- 質問・討議を交えながら」

進行：成田哲也(京大・生態研センター)

遊磨 正秀(京大・生態研センター)

「琵琶湖研究の一覧」

熊谷 道夫(滋賀県琵琶湖研究所)

「びわ湖における非一様構造

- 主に物理学の観点から -」

三田村緒佐武(大阪教育大)

「びわ湖水の化学成分の分布」

手塚 泰彦(京大・生態研センター)

「琵琶湖の植物プランクトンについて」

永田 俊(名大・水圏研)

「琵琶湖の微生物食物連鎖」

浜端 悦治(滋賀県琵琶湖研究所)

「琵琶湖における水生植物の動態」

安藤 元一(国連環境施設開設準備室)

「ILECの世界湖沼データブックとUNEPセンター」

谷田 一三(大阪府立大・総合科学)

「水生昆虫から見た琵琶湖ファウナの固有性と普遍性」

渡辺 直(香川大・教育)

「琵琶湖の固有種の起源と種分化」

鈴木 紀雄(滋賀大・教育)

「琵琶湖の環境を科学する」

== 2月28日(金) ==

セッション2

「水の生態学研究における

新しい展開と可能性をめぐって」

進行：安部琢哉(京大・生態研センター)

東 正彦(龍谷大・理工)

三浦 泰蔵(京大・生態研センター)

「びわ湖で Top Down Approach はできるか？」

和田 英太郎(京大・生態研センター)

「安定同位体による研究の現状と展望」

東 正彦(龍谷大・理工)

「湖における食物連鎖にまつわる理論」

國松 孝男(滋賀短大・農)

「物質の動態 - 琵琶湖集水域から -」

細谷 和海(水産庁・養殖研)

「琵琶湖産淡水魚類の起源をめぐる研究の方向性」

竹門 康弘(大阪府立大・総合科学)

「動物による生息場所改変作用と群集

- スキューバ潜水による観察と実験の可能性

-」

中島 拓男(滋賀県琵琶湖研究所)

「沿岸帯生物群集の研究に関して」

遊磨 正秀(京大・生態研センター)

「水をめぐる環境生態学の提言」

嘉田由紀子(琵琶湖研究所・琵琶湖博物館準備室)

「とんでもない生態学 - 社会学の立場から」

セッション3(小集会)

「びわ湖をめぐる生態学研究

- 新たな観点・アプローチの模索・提言」

1 種分化・進化からのアプローチ

2 生物間相互作用からのアプローチ

3 環境学からのアプローチ

== 2月29日(土) ==

セッション4

「びわ湖をめぐる生態学の展開のための
企画・立案へ向けて」

進行：東 正彦(龍谷大・理工)

小集会からの報告

総合討論

【お願い】琵琶湖の研究に関する記録，特にどのような方々が琵琶湖研究にかかわってこられたのか，まとめたいと考えております。そこで，これまでに文部省科学研究費などで琵琶湖に関わる研究をされた方は，その時の実質的なメンバーがわかるような形の報告書あるいは申請書の一部の写しを生態研センター遊磨までお送り下されば幸いです。

京都大学生態学研究センター運営委員会（第三回）議事要旨

日時：1992年2月22日（土）

場所：京大会館

出席者：協議員20名，幹事2名

議題：

1．平成5年度概算要求について

寒帯生態，地球生態系，生態多様性の3研究部門増と，生態科学研究部門（客員），特別研究員部門，全国共同利用促進部門および事務部（事務長と図書・情報掛）を要求する。

特別設備費として多元素精密測定装置と調査船を要求する。また国際共同研究等経費としてIGBP「水体における物質循環と気候（第2年度）」と1993年度IGBP・GCTE国際シンポジウム開催費を要求する。以上の提案を了承した。

2．人事報告について

温帯生態研究部門の教授欠員に伴う人事について人事基準委員会からの答申を受けてセンター長が教員の公募文書並びに選考委員（6名）を提案し，これを了承した。

3．共同利用委員会からの報告と提案

共同利用委員会からの答申を受けて，センター長が協力研究員（Guest Scientist）制度を平成3年度から実施することを提案し，これを了承した。また運営委員会の下に新たに広報，将来計画，研究教育，財政計画専門委員会を設けるとの提案を了承した。

（文責：安部琢哉）

編集後記

- ・センター公募研究会でもあるびわ湖ワークショップの速報のみの記事を書きましたが，びわ湖研究に関する様々な情報や成果あるいは自由なdiscussionを“湖の会だより（仮題）”としてこれからも紙面にとりあげていきたいと思っています。
- ・今回から新米編集係が編集を担当することになりました。皆様からの御意見，情報等お待ち申しあげております（杉本敦子）。
- ・今号は教官公募の日程にあわせて，予定を繰り上げて発行いたしました。

京都大学
生態学研究センター・ニュースの問い合わせ先
京都大学生態学研究センター・ニュース編集係
